

# 我が署における V D T 定着への取組について

黒石宮林署 会計係員 石川 涼 三

## 1 はじめに

効率的な事務処理を行う上で、パソコン等V D T機器の活用は必要不可欠となっている。

しかしながら、当署の現状を見るとV D T機器を活用して業務を進めている者は、ワープロが約半数、パソコンは収穫調査の材積計算を主として若干名、分散処理システムについても、各システム1名程度となっており、活用が図られているとはいえない状況にある。

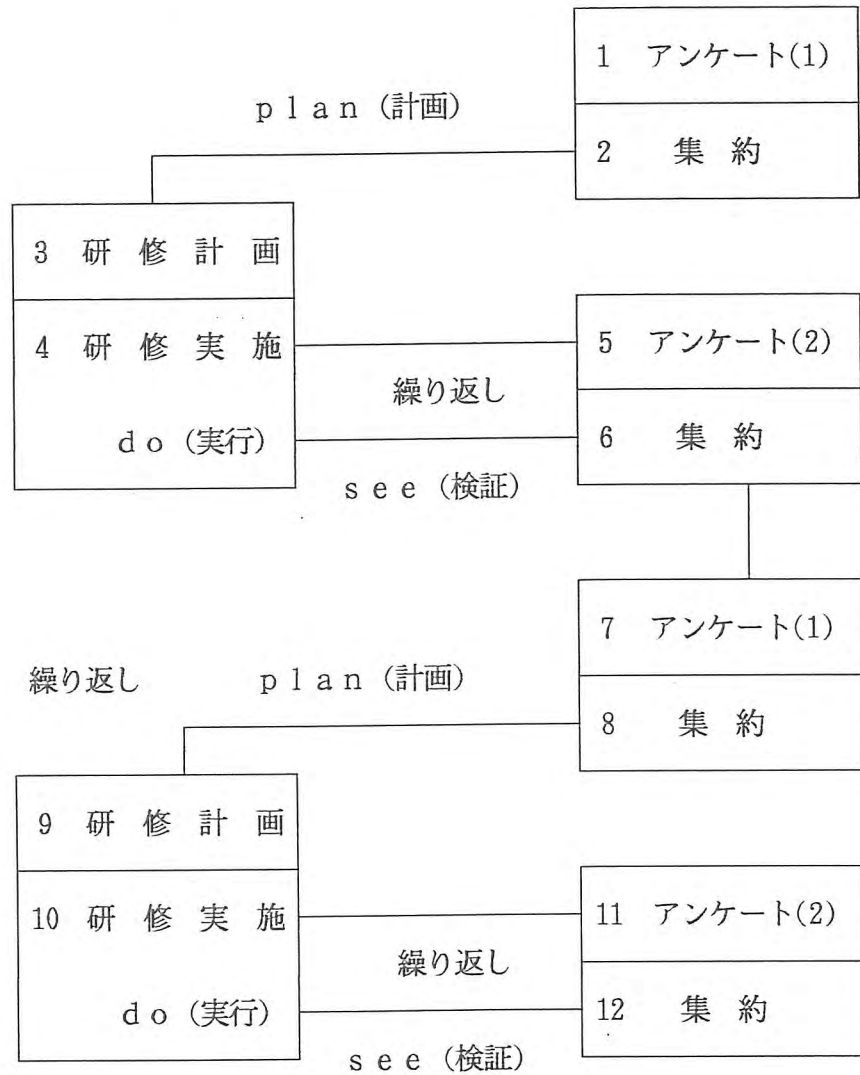
そこで、この状況を打破し、全員がV D T機器を使用できるようにすることを目標に職場内研修について、そのあり方等を見直し、実施したところ、大多数の者がV D Tを使用できるようになった。

この経過について、以下に説明する。

## 2 職場内研修企画図

職場内研修の実施に当たって、次のとおり企画した。

職場内研修企画図



## 3 VDTアンケート(1)

職場内研修の実施に当たり、VDTの使用状況や未使用の原因等について、表-1により個別無記名のアンケートを実施した。

表-1 VDTアンケート1

VDT職場内研修を行うに当たって、アンケートに御協力ください。				
なにに課ですか？		課	なにに係ですか？	係
機械は操作できますか？ (○×で教えてください。)	1	ワープロ	オアシス	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     例                      10忙しい                      11煩わしい                      12めんどろ                      13書いたほうがいい                      14聞いてもわからん                      15講習が少ない                      16覚える時間がない                      17すぐ忘れる                      18むずかしい                      19こまらない                      20教える人がいない                      21どうでもいい                      22簡単なところから                      23詳しく突っ込んで                      24何回も同じ所を                      25短時間で                      26                      27分かりやすく                 </div>
	2	パソコン	業務システム	
	3		一太郎	
	4		ロータス	
	5		ワークス	
	6		ウインドゥズ	
	7		ワード	
	8		エクセル	
	9	オフコン	分散システム	
VDT機器を操作しづらい理由は、何だと思えますか。 VDT職場内研修で、何をやって貰いたいですか。 VDT職場内研修をどの様に行ったら、いいですか。				
何か意見がありましたらどうぞ。				

#### 4 VDTアンケート (1)集約表

その結果は表-2のとおり。

ワープロ使用率は、使用可能者21名に対して10名で48%、パソコンは材積計算等を主とする9名で41%、マルチプラン等自分の業務に活用している者は20%以下という状況であり、VDTを業務に活用しているとは言えない状況であった。

また、使用しない原因は、①マニュアルが理解できない、②操作が難しい、③聞くのが煩わしい等が主な要因となっている。

表-2 VDTアンケート1集約表

業務上VDT作業状況, 習得状況									
総数 22名		ワー プロ	パ ソ コ ン						お コン
課	係		難システム	一太郎	マルチファン	ロータス	ワークス	ウインドウズ	
管理者		3	3	3	2	1	1	2	3
総務課	総務係	2							1
	会計係	1	1		1				2
業務課	収穫係	2	2		1		1		2
	造林係		1						1
	土木係	1							
森林事務所		1	2	1	1	1		1	
合 計		10	9	4	5	2	2	3	9
VDT操作習得の問題点と意見					問題点等に対する考え				
1 平均年齢が高く理解度が低い 2 機械の操作を覚えたくとも、要員が減って忙しく、まとまった時間がとれない。 3 局研修では疑問等をじっくり考えている余裕がない。 4 せっかく覚えた事が、時間をおいたため忘れてしまう 5 局研修後に署でうまく伝達できない。忙しい。 6 マニュアルが理解できない。 7 操作がむずかしい。 8 聞くのが煩わしいしすぐ忘れる					1 月1回のVDT講習の定着化を目ざす。 2 各機種ごとに操作できる者が講師となる。 3 いつでも、操作の習得が出来る環境を作る。 4 どこでも、教えられる体制を作る。 5 なんでも、利用できる物は利用し、分かりやすい講習に努める。 6 短時間で、繰り返し講習を持続する。 7 署全体がVDT操作育成に努める。 8 講師を特定せず、操作できる者全員で講習にあたる。				

5 VDT職場内研修計画表

そこで、研修方法については「簡単なものから確実に、繰り返し」をモットーに検討したところ、VTRの活用が効果的ではないかと思い、市販のウィンドウズ入門のビデオテープを購入し実施した。

6 研修状況の解説

研修内容は、マニュアルによる全体的な講習、実習と共に、ビデオテープを使用した講習と実習及び署で作成した学習テープによる個人学習など、VTRをフルに活用し、分かりやすい研修に心がけた。

その状況を説明する。

表-3 VDT職場内研修計画表

	講習内容	対象者	回	講 義 法
10月	ウィンドウズ入門 マルチプラン入門	全員	1	ビデオ 講 習
		全員	1	
11月	ウィンドウズ入門 ワープロ 入門	全員	1	ビデオ 実 習
		全員	1	
12月	マルチプラン入門 ワープロ 入門	未習熟者	1	実 習 実 習
		未習熟者	1	
1月	ワープロ 入門 マルチプラン基礎	未習熟者	1	討 論 実 習
		未習熟者	1	
2月	ワード 入門 エクセル 入門	全員	1	ビデオ ビデオ
		全員	1	
3月	ワード 基礎 エクセル 基礎	全員	1	ビデオ ビデオ
		全員	1	

(1) ウィンドウズ入門

ア 写真1は、ビデオテープを使い、ウィンドウズ入門編を講習している状況である。



写真-1

イ 写真2は、  
直接VDT  
機器の場所  
で、ビデオ  
テープを使  
用しながら  
の実習をし  
ている状況  
である。

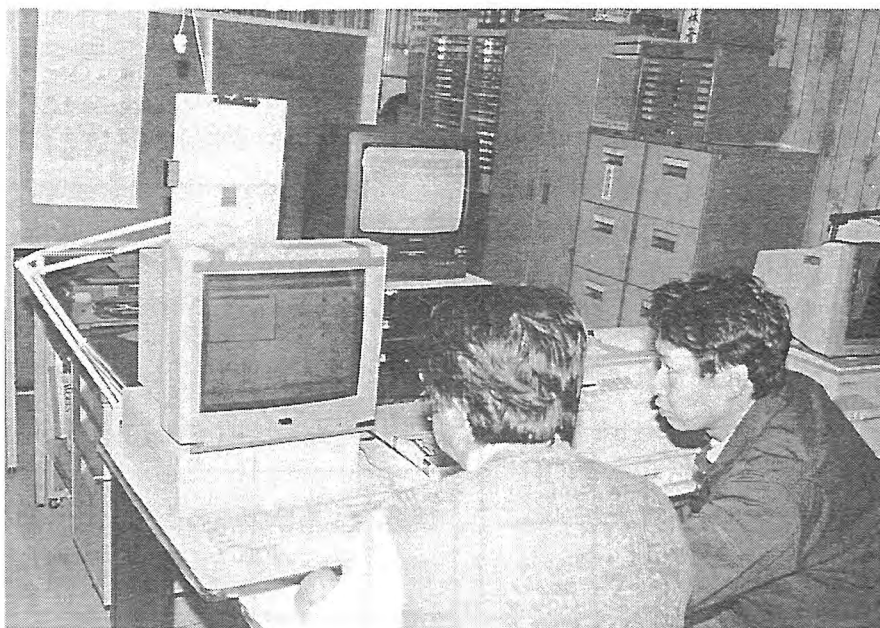


写真-2

## (2) マルチプラン入門

ウ 写真3は、  
マルチプラ  
ンの講習を  
しながら、  
VDT機器  
の操作方法  
を実習して  
いる状況で  
ある。

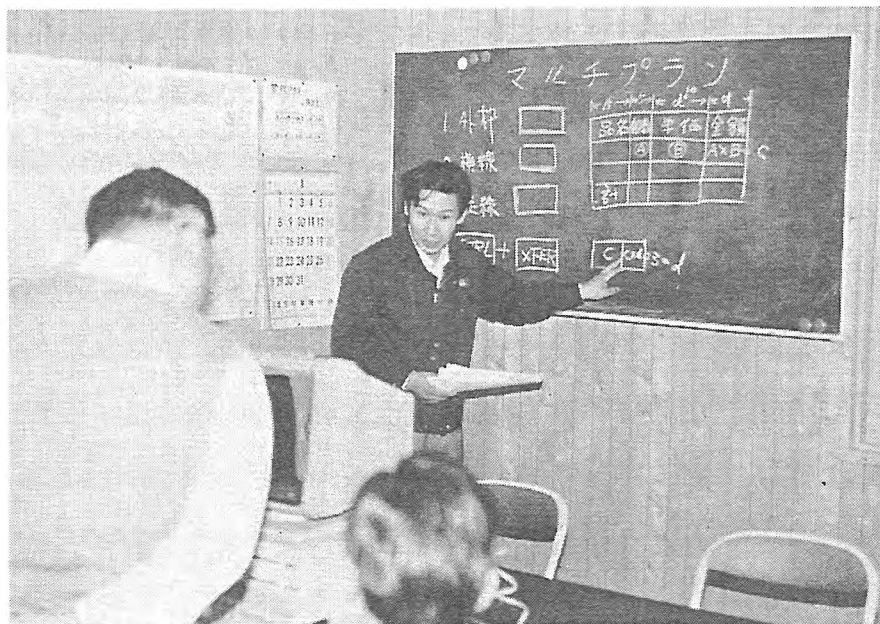


写真-3

エ 写真4は、マルチプラン操作ができる者が、講師となり、VDT機器の実習をしている状況である。



写真-4

### (3) ワープロ入門

オ 写真5は、ワープロ研修者を機器の数に合わせて、限定した上で、実習と講習を繰り返しながら機械の操作実習をしている状況である。

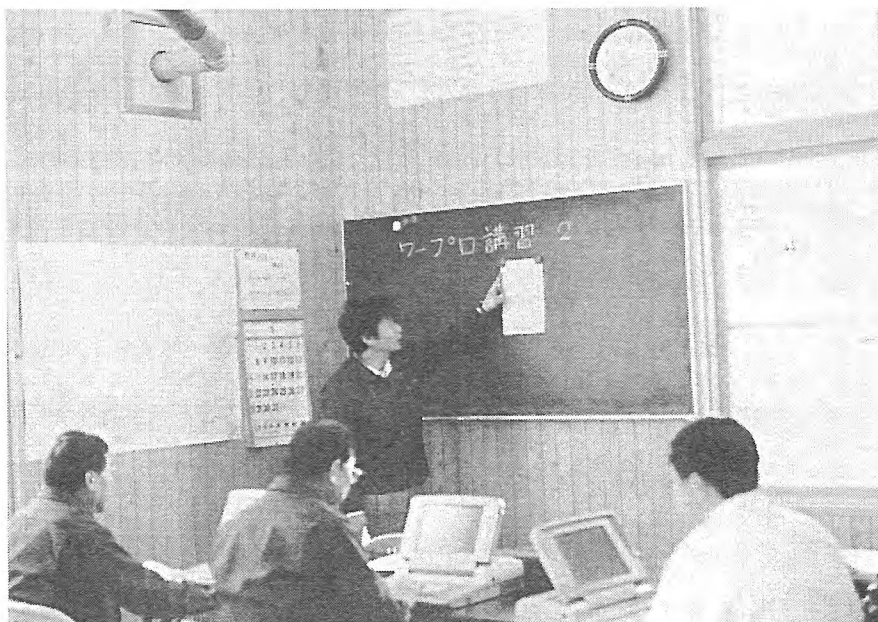


写真-5

カ ワープロ  
入門を実施  
した結果、  
個人学習用  
ビデオテー  
プの作成提  
案があり、  
写真6は、  
これの作成  
状況である。



写真-6

キ 写真7は、  
そのワープロ  
学習テー  
プによる個  
人学習状況  
である。

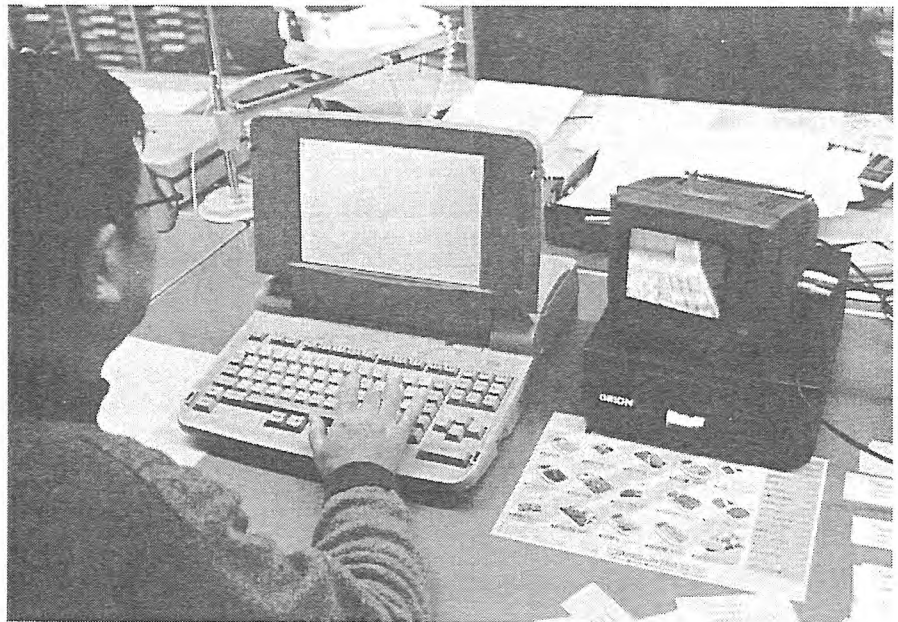


写真-7



#### (4) 分散

ク 写真8は、分散処理システムの機器の実習状況である。

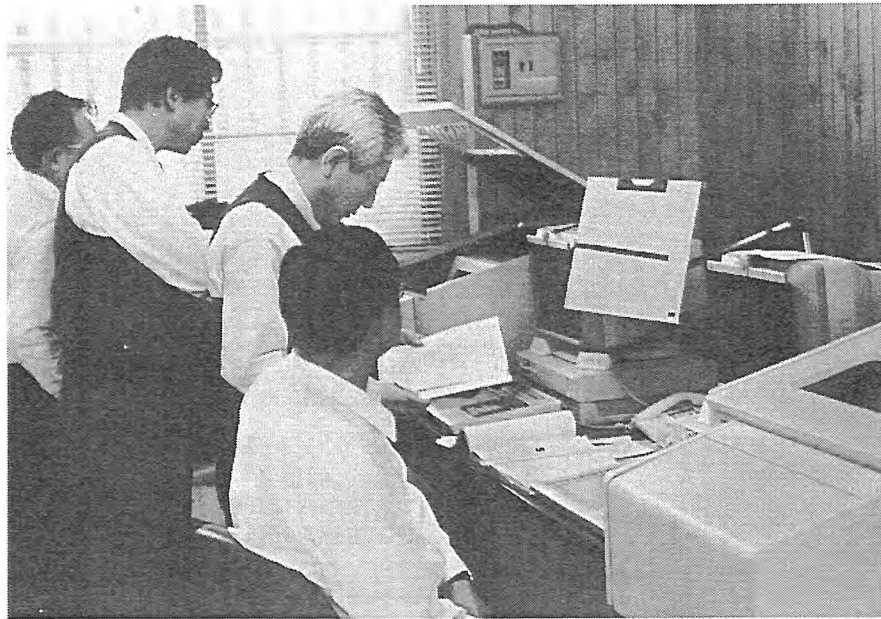


写真-8

表-4 VDT職場内研修実行状況

これまでの実施状況を取りまとめると表-4のとおりであった。

年月日	講習 内容	時間	参加者	講習方法
7.10.25	ウインドウ入門	2 H	11	ビデオ, 講義
10.25	マルチタスク入門	2	9	講義, 実習
11.29	ワープロ 入門	2	5	講義, 実習
12.15	マルチタスク入門	2	10	ビデオ, 講義
12.19	ワープロ 基礎	2	5	ビデオ, 講義
8.1.9	ワープロ 基礎	2	5	ビデオ, 実習
1.9	マルチタスク基礎	2		ビデオ, 実習

このような集合研修を実施する外にも、業務の合間には各人がVTRを活用しながら個人学習にも努めるなど積極的な学習が行われた。

ワープロについては、機器の数の制限もありグループ分けをするほど盛況であった。なお、危惧された拒否反応は見られなかった。

## 7 VDTアンケート(2)

研修内容の充実を図る上で、より具体的に問題点を探り、研修要望に応えるため、毎回研修終了後にアンケートの実施、集約を行い、次回の職場内研修へ活用させることとした。

表-5 VDTアンケート2

VDT職場内研修の充実のため、アンケートに御協力ください。		
なに課ですか なに係ですか		課 係
( 研 修 項 目 )		
研修に参加して、どうでしたか。		
理解できましたか。		
今後、どの様な機器やシステムの講習を希望しますか。		
何か一言		

## 8 VDTアンケート(2) 集約表

表6は、集約結果の主なものを、取り上げたものである。

このアンケートを取りまとめることで、より具体的な問題点と、具体的な研修方法が考えられるようになった。

特に、ワープロ研修は講習、実習、ビデオ講習、ビデオ実習、個人学習と問題点を整しながら成果として積み重ねることができた。

表-6 VDTアンケート(2) 集約表

今後の課題と問題点				
	講習内容	成果	問題点	対策
10月	ウインドウズ入門 マルチプラン入門	ビデオで学習することで、概要を理解できた。 継続した研修を期待する声が多かった	ビデオ学習は繰り返し学習する体制が必要。 同左。	常時、学習体制の設置。 継続した研修体制
11月	ワープロ入門	新たな発見と未操作者の積極的な参加があった。	一人一台の講習でなかったため、間があきすぎた。	5台5人体制での講習を確立。 繰り返し学習体制の確立。
12月	マルチプラン入門 ワープロ入門	講習指導者の積極的な参加があった。 積極的な参加希望が多く5人体制では足りない。	時間が足りない。 すぐ操作を忘れるいつでも、聞ける体制を。	現段階では、短時間で進める。 次回ビデオ撮影により、ビデオ学習の体制作り。
1月	ワープロ基礎 マルチプラン基礎	ビデオ学習と平行し内容の充実がある。	入門編の再度の実習希望あり。	次年度より実施。

## 9 研究の結果

研修の成果をみるため、8年1月4日でアンケート(1)を再度実施し、集約表にまとめた。

その結果、4ヵ月という短期間にかかわらずワープロは、全体のうち17人81%の人がVDT機器を使用できるようになってきている。

表-7 VDTアンケート1集約表

業務上VDT作業状況、習得状況									
課	係	ワー プロ	パソコン						分散
			業務システム	一太郎	マルチプラン	ロータス	ワークス	ウインドボス	
総数	22名								
管理者		4	3	3	2	1	1	2	3
総務課	総務係	2	1	1	1				1
	会計係	3	1		2				3
業務課	収穫係	4	2	1	2		1		4
	造林係	2	1						1
	土木係	1							
森林事務所		1	2	1	1	1		1	1
合計		17	10	6	8	2	2	3	11
VDT操作習得の問題点と意見				問題点等にたいする考え					
1, ワープロを詳しく指導してほしい。 2, 表計算は、エクセル、マルチプランどちらを覚えたらいのか 3, 表計算をもっとゆっくり指導してもらいたい。 4, 分散システムも研修に入れてほしい。 5, 繰り返し教えてほしい。				1, ワープロ研修は、研修を受けた人は、ビデオ学習に切替え、初期研修を再度行い、詳しい基礎編に、移行したい。 2, どの機器でも、研修を実施していく。 3, VTR機器を利用しながら、ゆっくり、繰り返し研修を実施する。 4, 分散システムも研修にもりこむが、講師は操作出来る人それぞれが講師となる。 5, 継続出来る内容とする。					

※ワープロ未使用者のうち1名は使用不可となっている者

従来の研修方式は、関係者及び希望者のみに限られ、全員が参加できる態勢を確保できなかった。

これは、操作が難しい、1回教わっても理解できない等の認識が先行し食わず嫌いの部分が大きかったためと考えられる。

しかし、今回の一連の研修を行った結果、大多数の者がVDT使用に至ったことは、従来方式の研修と平行してビデオを活用したことにより、自分の時間帯で、何日でも、繰り返し練習できたことが大きな要因と考えている。

また、従来以上に署でのVDT職場内研修の希望も高まっており、今後の多種多様なニーズに応えるよう、研修の継続と内容の充実を図っていきたい。

## 10 まとめ

このように、当署では研修を行うに当たって、アンケート・聞き取り調査を行うなど企画・立案の段階から全員が参画すると共に、実習に当たっては、講師を限定せず、それぞれの得意の分野で講師を努めるなど、一丸となった研修を行うことができた。

また、節目節目でVDT研修の方法等を模索するためのアンケート調査を行い、弊害となっている原因の究明と、より分かりやすい研修方法の追求を図り、その上で受講者の提案をうけて、個人学習用のビデオテープを作成し、各人の積極的な参加意識を更に高める結果となったことは、VDT操作者の拡大育成の大きな力となっている。

最後に、全員がVDT機器を自分の手足として業務に活用できるよう、研修を継続していきたいと考えている。